

平成29年度 県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会

議事概要

1 日 時 平成29年8月29日（火） 13:00～16:30

2 場 所 奈良県議会棟 本会議場及び第2委員会室

3 出席者

荒井正吾委員長、栗山道義副委員長、今川敦史委員、川端章代委員、齋藤清二委員、高本恭子委員、永田正利委員、久隆浩委員

- ・県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会規則第5条の2の規定により、会議の開催が成立したものとする。

（第5条の2 委員会は、委員（委員長を含む。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決をすることができない。）

4 公開・非公開の別

- ・プレゼンテーション及び質疑応答 公開（傍聴者 59人）
- ・審査及び選考 非公開

非公開理由：県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第3条の規定による

（第3条 委員会は原則公開とする。ただし、審査及び選考については、奈良県情報公開条例（平成13年3月奈良県条例第38号）第7条第2号に該当する情報について審議等を行うため、非公開とする。）

5 概 要

<開会>

○知事挨拶

- ・「県内大学生が創る奈良の未来事業」公開コンペは今年度で第6回目の開催となるが、例年コンペで選ばれた最優秀賞、優秀賞の政策提案について、選ばれた県内大学生グループの方と県の担当部局で事業化に向けての検討を行い、翌年度事業を実施している。
- ・実行性があり、実現可能性の高い事業が出てきており、大学生の皆様は豊かな発想力をお持ちなので、どのようなことを目指したいのか、またそれを実現するためにはどのような一歩を踏み出すのかということを発表していただきたい。
- ・事前審査では、16グループから政策提案をいただき、本日の公開コンペには、事前審査を突破した7グループに出席いただいている。発表を楽しみにしているので、はりきって、精一杯のプレゼンテーションをしていただきたい。
- ・審査委員の皆様をはじめ、本事業の実施にご協力をいただいている県内大学関係者の皆様に感謝を申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

<プレゼンテーション及び質疑応答>

- 県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領第2条の規定により、県内大学生が創る奈良の未来事業に応募した県内の大学等に在籍する学生（以下「県内大学生」という。）によるプレゼンテーション及び委員による質疑に対する県内大学生からの応答を行った。

(1) 政策提案1

政策提案の名称：「知と好奇心のアセンブリ 大学生が奈良の誇りを地元から創出する核（コア）となる」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

文学部文化財学科1年 若林 正浩

- 資料1に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

- 質疑（栗山副委員長）：

- ・発表のなかで、いくつか活動例をあげていただいたが、最優先で取り組みたいのはどのようなことか。また、それをどのようなステップを踏んで実施しようと考えているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・日本の歴史の中で非常に重要な石上神宮周辺や山の辺の道が取り上げられることが少ないので、その辺りをクローズアップしていきたい。また、若い世代の人がこの辺りから離れることが多いので、小さい時からこういった活動に参加してもらえよう取り組んでいきたいと考えている。

- 質疑（栗山副委員長）：

- ・例えば、山の辺の道で、周辺地域の方にアンケート調査を行い、アピールしたいことやもっと知ってもらいたいことを聞き出していくということか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・そのとおり。

- 質疑（栗山副委員長）：

- ・その次のステップはどうするのか。例えば、アンケート結果をもとにイベントを実施するのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・こちらで考えたストーリーを軸に、アンケートでいただいた意見を取り入れて、事業を実施していきたい。

- 質疑（久委員）：

- ・発表のなかで、文化財調査の実施について説明があったが、専門家の方がされるような調査を実施するつもりか。それとも、大学生が主体的になって実施するのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・奈良大学の教授も参加して、専門的な調査を実施したいと考えている。

- 意見（久委員）：

- ・教授の先生だけで調査を実施することは難しいので、大学生は大学生ならではの調査を提言いただいた方がよいのではないかと思います。

○質疑（今川委員）：

- ・歴史講演会・探訪会を年3回開催するということであるが、どのような形で開催するのか。大学の方で参加者を決めるのか、公募という形をとるのかなど、具体的な考えがあれば教えていただきたい。

応答（県内大学生グループ）：

- ・私たちが地域へ出向き、文化財について説明等をさせていただく時に、地域の方にお集まりいただける場を設けて、そこで学習会を開くことができると考えている。

（2）政策提案2

政策提案の名称：「学んで守ろう僕らの森—中高大連携森林学習プロジェクト」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

農学部環境管理学科3年 奥芝 理那

○資料2に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・中高生の募集は学校等を通じてされると思うが、このようなプログラムに参加したい生徒に集まっていただくという理解でよいか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・そのとおり。周知にあたって、奈良県教育委員会にご協力いただき、林業体験に参加する生徒を募集したいと考えている。

○意見（久委員）：

- ・「大阪府みどり公社」が、「府民の森」で実施している環境学習に、中高生に参加していただきたいと学校に勧めているが、必ずしも森が大好きな生徒ばかりではないので、学校側は少し尻込みされている。このような実情もあるので、先程ご提案いただいたように、積極的にプログラムに参加したい生徒を集めていただく方がよいのではないかと思います。

○意見（永田委員）：

- ・学生の時代から、森林の多面的役割について勉強いただくことは大事だと思うので、しっかりと取り組んでいただきたい。

○質疑（川端委員）：

- ・大学生ボランティアの方を訓練されるということであるが、どのような形で訓練しようと考えているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・大学生ボランティアの方には、林業体験を実施する際に、中高生が安全に取り組むことができるように、補助等をする役割を果たしていただくと考えている。そのために、研修では、実際に林業体験で行うのと同様の作業を体験していただくと考えている。他にも、安全に配慮した実習内容について、講義形式での研修も想定している。

○意見（高本委員）：

- ・素晴らしい取組であると思うが、下刈りや枝打ち等の体験をする際には刃物を使用し、危険であるので、子どもたちがけがをしないように、よく考えて

実施していただきたい。

応答（県内大学生グループ）：

- ・下刈りや枝打ち等の体験は、現時点では考えておらず、中学生は刃物を使わない植林を検討している。高校生になると、間伐等の刃物を使う体験も検討しているが、大学生ボランティアにきっちりと訓練を行い、生徒1人につき、大学生1人が補助をするなど、徹底した安全管理を行いたいと思う。

（3）政策提案3

政策提案の名称：「小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部教科教育専攻保健体育専修中等教育履修分野3年次

小田 陽介

○資料3に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・内容的にはパラリンピックの普及というよりも、ユニバーサルスポーツの普及という印象があるが、どちらか。パラリンピックを普及させたいのか、それとも、障害者スポーツを通じて誰もがスポーツに親しむ環境づくりをしたいのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・パラリンピック種目の周知を通じて、障害者理解を深めるということを目指している。

○意見（久委員）：

- ・それなら、ユニバーサルスポーツを見たり、体験するというだけで、同じような目的が達成できるのではないか。今後検討していただきたい。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・小学生を60名集めるということであるが、具体的にどのように集めるのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・まだどのように集めるか決めていないが、各学校に行き行って実施するのではなく、障害者スポーツを知りたい、やってみたいという人を集めて実施したいと考えている。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・学校とは関係なく、実施するということか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・学校からクラス単位で児童を集めるのではなく、希望者を募り、さまざまな学校の児童を集めて実施したいと考えている。

（4）政策提案4

政策提案の名称：「留学生による奈良の旧正月フェスティバル」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良女子大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻1年

林 君嶸

○資料4に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（高本委員）：

- ・お正月に着物を着る人が減ってきているが、留学生にとっては、和服を身につけるといふこともよい体験になるのではないかと思う。そういったプランは入っていないのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・企画段階では、着物を着るといふ意見も出たが、業者の協力が必要なので、今回の提案内容には入れなかった。もし事業化することになり、予算に余裕があれば考えたい。

○質疑（久委員）：

- ・このプログラムのなかで、ガイドや案内等、留学生だからできることや、実際に皆さんが積極的に取り組むことはあるか。

応答（県内大学生グループ）

- ・私たち留学生としては、まずは言語能力を活かしたいと考えているが、この事業では、業者や地域の方の協力が非常に必要である。現在、商店街の方々と相談をしているが、外国人観光客の誘致についても興味を示しておられるので、地域の方にも協力をさせていただきたいと考えている。

○意見（久委員）：

- ・例えば、皆さんの国と日本の行事のやり方では、共通している部分もあると思う。それが見えるのは、両方のことを知っている皆さんなので、そういった共通点について解説ができるのではないか。

○質疑（栗山副委員長）：

- ・日本に來られてから、日本のお正月の行事を実際に経験されたか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・日本では、お正月を家族や親族と一緒に過ごす方が多く、外国人が日本のお正月を体験する機会は少ないと思ひ、今回この提案を行った。

○意見（栗山副委員長）：

- ・事業を実施するにあたり、旅館やホテル等、外国人観光客が滞在するさまざまな施設から同意を得るなど、受入体制について検討する必要がある。また、まちづくり等のサークルに入っている日本人の大学生や地元の商工会と共同することも重要である。これら2点を検討すると、比較的、実行できるのではないかと思う。

○質疑（齋藤委員）：

- ・外国人観光客を誘致するにあたり、環境の整備について、どのように考えているのか。例えば、奈良県ではWi-Fiの環境整備があまり進んでいなかったり、旅館やホテルでクレジットカードが使えないということもある。

応答（県内大学生グループ）：

- ・Wi-Fiの環境整備やクレジットカードの利用については、改善されている状況もあるので、今後少しずつ進んでいけばと思う。

(5) 政策提案5

政策提案の名称：「大学生×小学生で創る「スポーツなら奈良」」

提案者の在籍する大学等の名称：畿央大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

健康科学部人間環境デザイン学科3年 清水 真夏

○資料5に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑(久委員)：

- ・総合型地域スポーツクラブの活性化にあたり、県民の方もまだまだ競技型スポーツクラブの方に目が向いているという現状がある。また、総合型地域スポーツクラブでは会費の支払いが必要になるので、県民の方にとって、それもハードルになっているのではないかと思う。こういった県民の方の意識を変えようということについては、検討しているのか。

応答(県内大学生グループ)：

- ・直接的に県民の方の意識を変えようという試みは現時点で検討していないが、事業を通してさまざまなスポーツを小学生に経験してもらうことで、スポーツに対する意識が変わってくるのではないかと考えている。アンケートの結果等からも、そういった意識の変化をある程度把握することができるのではないかと思っている。

○質疑(久委員)：

- ・発表のなかで、運動嫌いのこどもの割合が高いという話があったが、そのなかには、今の教え方が嫌いというこどももかなり多いのではないかと思う。例えば、ユニークな中学校では、競技型のスポーツではなく、体力づくりをするためのクラブ活動も出てきている。また、何人かで一緒に競技を教えると、できる人は残るが、できない人は去って行くということも起こり得るので、そういったバランスを上手くとりながら体力づくりができるような仕掛けができないか。

応答(県内大学生グループ)

- ・今はメジャースポーツが多いが、今後マイナースポーツを取り入れていくことによって、さまざまな可能性を見いだせるのではないかと考えている。

○質疑(久委員)：

- ・マイナースポーツであっても、数年やっていると、できる人とできない人が出てきて、できない人は去って行くことになる。競技型のスポーツというのは、そういった仕組みになっている部分があるので、そこを乗り越えるための工夫は何か考えているか。

応答(県内大学生グループ)：

- ・体力向上型のスポーツクラブについても、今後検討していくことができると考えている。

○質疑(今川委員)：

- ・メジャースポーツの他に、マイナースポーツの実施についても考えておられるということであるが、発表のなかで紹介のあったビーチラグビーの他に、どのような競技を考えているか。

応答(県内大学生グループ)：

- ・畿央大学には、ビーチラグビーの他にも、フリスビーを使ったアルティメットのクラブ活動がある。また、帝塚山大学にはラクロス部があり、奈良女子大学にはアイススケートやなぎなた等のクラブ活動がある。このように、調べたなかでも、奈良県にある地域総合型スポーツクラブで実施されていない

スポーツがたくさんあるので、それらを取り入れていくことができればと思っている。

○質疑（高本委員）：

- ・中南和地域に住んでいる方にとっては、大学まで行くことが大変であり、逆に大学生に来ていただく方が実現的だと思うが、いかがか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・大学生が現地に出向く出張型の授業も考えているので、今後それが可能な仕組みについて検討していきたい。

（6）政策提案6

政策提案の名称：「スマートウォーク」

提案者の在籍する大学等の名称：畿央大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

健康科学部人間環境デザイン学科3年 板倉 奏美

○資料6に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・万歩計がスマートフォンに変わっただけの印象を受けたが、スマートフォンにはさまざまな機能があるので、それらを組み合わせることによって、もっと魅力的なものになると思う。検討していることはあるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・万歩計のアプリケーションは、スマートフォンを使っていただくためのきっかけづくりなので、ウォーキングの経路を考えるための地図のアプリケーション等、他のアプリケーションも使用する予定である。

○意見（久委員）：

- ・例えば、スマートフォンを使ってスタンプラリーができるアプリケーションや、歩数でカロリー計算ができるアプリケーションがある。このように、さまざまな機能を組み合わせることによって、楽しんだり、自分の健康管理をしたりすることができるのがスマートフォンの魅力であるので、もう一步踏み込んで考えると、より面白くなるのではないかと思う。

○質疑（永田委員）：

- ・御所市で運営されているコミュニティカフェには、何人くらいが参加されているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・今のところ、53名程度に参加いただいている。その中でも、運営スタッフとして活躍されている方は、10名程度おられる。

○質疑（永田委員）：

- ・コミュニティカフェの取組を通して、今回の提案に至ったのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・そのとおり。実際に、私たちもスタッフとしてコミュニティカフェに参加したときに、スマートフォンの使い方を通して、参加者の方とコミュニケーションをとることがあったので、このような提案をさせていただいた。

○質疑（永田委員）：

- ・御所市以外に、他の市町村でも進めていこうという考えはあるのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・最初は御所市で実施させていただき、その後会議を開催したり、データをとったりして、他にも実施が可能な地域があれば、展開していく予定である。

○質疑（川端委員）：

- ・スマートフォンはかなり高額であり、また目が疲れるなど体力的なこともあるが、高齢者からどれくらいの要望があるのか。また、費用対効果は考えているのか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・スマートフォンで撮影した写真のコンテストを開き、そのようなイベントを通して、コミュニケーションを広げていけたらよいと考えている。

○質疑（今川委員）：

- ・日々の積み重ねとなると、個人的な達成感があった方がモチベーションが上がるのではないかと思うが、達成感という観点で検討していることはあるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・万歩計で毎日歩数を計るので、少しずつ歩数が増えると、達成感を得ることができるのではないかと思う。また、参加回数が増えるにつれて、参加者同士でのコミュニケーションも増えていくと思うので、そういったことから達成感を感じていただきたい。

（7）政策提案7

政策提案の名称：「奈良のうまいもの探検隊」

提案者の在籍する大学等の名称：帝塚山大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

現代生活学部食物栄養学科3年 林 美佳

○資料7に基づき、県内大学生グループよりプレゼンテーション

○質疑（久委員）：

- ・今回の提案をするなかで、自信がある、または成功する可能性が高いというものはあるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・これまでに調べたなかで、金平糖等の小さくて、きらきらと見た目にもかわいいものが印象に残っているが、県外ではあまり知られていないということであるので、県外の方にももっと伝えていきたいと思っている。

○質疑（久委員）：

- ・すでにアイデアの種があるのかどうか、そして自分の感性や感覚をつかって提案していただくこともできるのではないかと思い質問させていただいた。例えば、普段の生活のなかで、自分たちが住民や顧客、または観光客になったつもりで、魅力を感じるものや惹かれるものはあるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・例えば、若い人たちは、旅行の際にきれいなものの写真を撮っているが、私の場合は、おいしいものの写真を撮ることが多いので、奈良県に今あるものを使って、おいしいものをつくりたいと考えている。

○質疑（齋藤委員）：

- ・ブランドをつくるということは、経営者の視線が相当重要視されると思うが、経営者の視線から考えたことはあるか。

応答（県内大学生グループ）：

- ・企業の経営理念も踏まえて、企画を考案したいと考えている。

<審査・選考>

○「県内大学生が創る奈良の未来事業審査委員会運営要領」第2条の規定により、委員による審査及び選考を実施し、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を選考した。

・最優秀賞：

政策提案2

政策提案の名称：「学んで守ろう僕らの森—中高大連携森林学習プロジェクト」

提案者の在籍する大学等の名称：近畿大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

農学部環境管理学科3年 奥芝 理那

・優秀賞：

政策提案3

政策提案の名称：「小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良教育大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

教育学部教科教育専攻保健体育専修中等教育履修分野3年次

小田 陽介

政策提案4

政策提案の名称：「留学生による奈良の旧正月フェスティバル」

提案者の在籍する大学等の名称：奈良女子大学

グループ代表者の学部・学科・学年・氏名：

大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻1年

林 君嶸

<選考結果発表・表彰>

○荒井委員長より、最優秀賞1提案、優秀賞2提案を発表し、賞状と副賞を授与した。

<審査委員長講評>

○荒井委員長より、講評を行った。

- ・今年度は、地域の方、または民間の方と協働して実施する提案が多かったように思う。たいへん有効な提案、実行性のある提案をしていただいた。
- ・大学生の方にとって、提案事業への参加を通して、社会に出る前のインターンシップになればよいと思う。

- ・本日ご参加いただいた大学関係者の皆様、大学生の皆様、そして審査委員の皆様
に感謝申し上げます。

<閉会>